



差別克服の道筋を求めて

「ヒューマン博士と考えるようつ」

国東市では今年度も、人権・同和問題の解決に向けて地区人権学習会を実施しています。安岐地区では、今年度のテーマを『被差別部落の成り立ち』にしました。差別克服の道筋を考え、てみると、同和問題への取り組みに当たっては、偏見や差別の誤りをよく理解し、認識することが大切であり、正しい歴史認識が不可欠だと思われるからです。また近年、部落史の見直しも始まっています。



▲昨年の地区人権学習会の様子

「差別されるようになったのか、なぜ差別されてきたのか」という視点から、被差別部落の成り立ちの原因や歴史的背景について、理解を深めていくことにしています。私たちにとって大切なことは、差別の起こった理由を知って、一日も早く間違った考えを取り除くことです。部落の歴史について学ぶということは、現在の部落差別をどのようにすればなくせるかということへの解答をさがすことでもあるといわれます。これまで被差別部落の歴史については、江戸幕府の統治政策が起源だとする「近世政治起源説」が長らく定説になっていました。しかし、一九六五年に『同和対策審議会答申』が出されて以後、部落史の研究が大幅に進展し、今日では部落史の見直しが盛んです。

地区人権学習会の具体的な進め方としては、ワークシートを使って、まず部落史を学ぶための共通基盤づくりをすることにしています。そのうえで、人権啓発ビデオを視聴することで、ヒューマン博士のわかりやすい解説により、差別の成り立ちと歴史や差別された人びとの暮らしについて時代を追って学んでいきたいと思います。そして偏見や差別が歴史の中でつくられてきたことや部落が歴史的に担ってきた仕事は、社会の分業として人びとの生活に欠くことのできない有用な仕事であったこと、さらに日本の伝統的な芸能や文化が、差別された人びとの生産や労働に支えられてきたことなどについて皆さんと理解していきたいと考えています。

偏見や差別が、歴史の中でいかにして生まれたか、強まっていったかを歴史の事実から深く学ぶことで、差別克服の道筋を明らかにする一助にすることができたらと願っています。たくさんの方々の学習会への参加を願います。

文責・教育委員会
安岐分室 永松

人権講演会を開催しました

8月25日(火)、「第18回差別をなくす仏の里の集い」が、国東市と姫島村から約600人の参加のもと、アストくにさきアストホールで開催されました。今年は大分県人権教育研究協議会名誉会員の吉野純一先生が「51%で：まあ：いいか」と題し、同和問題に関する講演を行いました。



▲「差別をなくす仏の里の集い」の様子

お知らせ

人権ビデオ上映会(隣保館)

テーマ・六曜

10月20日(火) 午後2時～4時

同和問題学習会(隣保館)

10月23日(金) 午後2時～4時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-1722